

平成 30 年 7 月豪雨災害 現地レポート

所属 建設部 河川課
氏名 勝又 篤志

1 期間 平成 30 年 7 月 27 日 (金) から 8 月 4 日 (土) の 9 日間

2 場所 広島県呉市

3 活動内容

私は、静岡県災害支援派遣職員第 4 陣の一員として 9 日間災害支援業務に従事しました。

初日は朝 8 時半頃三島駅から新幹線で広島に向かい、12 時半頃到着しました。広島駅から呉市までは車で向かいましたが、通常 1 時間かからずに移動できるどころ、主要道路の通行止めなどにより呉市役所まで 2 時間ほどかかりました。移動中、市街地には変わった様子はなかったのですが、市境の山間部では景色が一変し、山肌のいたる箇所茶色の地肌部分が目立つようになり、道路の傍らでは人の背丈よりもはるかに大きい岩が転がっている状況が所々で見られました。市役所到着後は、前の班との引き継ぎを行い、初日の業務を終えました。

今回の第 4 陣は、静岡県の職員 3 名と県内各市町の職員 33 名で構成されており、避難所の運営支援、給水・配水業務、家屋の破損具合の調査、公共土木施設の調査などに振り分けられ、私はその中の公共土木施設の調査に従事し、翌日より本格的な業務にあたりました。調査は呉市の方と一緒に、市が管理する道路や河川の被災状況の調査を行いました。

今回の豪雨により市内の複数の地域で土砂災害が発生し、市が管理を行っている道路・河川等の公共土木施設も多数の被害を受けました。呉市の面積は沼津市の約 2 倍程度の広さで、その時点では被災箇所全てを把握しきれていないとのことでした。私が派遣された時点での被災箇所は約 200 箇所、日を追うごとに増えていき、派遣を終える頃には 263 箇所まで増えました。



測量状況①



測量状況②



測量状況③



災害箇所

私が主に行った業務内容は、道路上に溜っていて既に取り除かれた土砂の量を推測で求めるための調査です。本来であれば、国から補助金をもらう為には事前に測量を行い、土砂の量を把握してから撤去作業に着手するのですが、速やかに復旧作業を行うには、道路が本来の機能を果たすことが必要となり、第一優先として土砂を撤去してしまったからです。よって、道路、家屋の壁や民地の擁壁に残った土の痕跡を基に土砂の堆積厚、堆積していた幅や延長を測定していきましたが、測量を行う箇所ごとに土の痕を探し、申請する際の根拠となるかを考えながら慎重に進めていくため、1箇所あたりの測量に時間を要すると感じ、また、土木維持課の職員12名で市内の被災箇所全ての調査を担うため、かなりの時間を要することが見受けられました。

今回の派遣を通じ、行政は災害により大変多くの業務を担うと感じました。呉市職員の方の中には、災害発生時から無休で業務にあたっている方や、土木維持課においては測量業務だけでなく、市民の方々の要望への対応も行っているため、1日中外出した後に測量の成果をまとめることも含めて、夜遅くまで業務にあたっている職員の方もいました。

私自身が大規模な災害に直面したことが無い中で、災害を受けた道路等の公共施設がどのようなになってしまうかを直接見ることは、とても有益でありました。災害を未然に防ぐことが困難である以上、発災後の対応が円滑に進むよう、今回得た経験を活かしたいと思います。